

三方よしのインフラメンテナンスin福島 (H29.3.7)開催報告

主催：(公社)日本ファシリティマネジメント協会
インフラメンテナンス国民会議

- インフラの維持管理において、包括的民間委託等の民間のノウハウを活かす手法の導入が各地で進められている。今回は、特に地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性について官民の事例紹介を通して、第1部、「行政側の期待」「住民・企業側の模索」を各発表者から、第2部、それぞれの立場からの視点でのパネルディスカッションという内容で開催した
- 福島県はじめ全国から、企業、自治体、大学、市民と約150名が参加した
- パネルディスカッションでは、イメージ・評価を上げて人材不足を解消、女性の参画の期待の意見、特に市民の視点からと、地元出身トライアスロンアスリートのパネリストからの新鮮な意見で盛り上がり、会場からも積極的な意見が続いた

◇第1部 開会挨拶～話題提供・事例発表

○協会挨拶 日本ファシリティマネジメント協会(JFMA) 専務理事 成田氏

○話題提供『インフラメンテナンス国民会議が目指すもの
～インフラメンテナンス革命～』
国土交通省 総合政策局 交流連携事業調整官 安原氏

○行政側の期待

①『過疎地における地域建設業協働組合の包括維持管理』

福島県土木部道路管理課主任主査 木村氏

②『一部移管後の国道4号および県道の包括的維持管理の施行と経過』

福島県県中建設事務所企画部管理課主任主査 小野田氏

○住民・企業側の模索

①『民間企業による新たな発想の有料道路の管理・経営』

株式会社 ガイアート 道路維持戦略室 課長 渡邊氏

②『未来のメンテナンスのための新設工事～漏水を未然に抑制する
トンネル設計改善』

寿建設株式会社 代表取締役 森崎氏

③住民と協働による道づくり&橋守プロジェクト

日本大学工学部土木工学科 教授 岩城氏



挨拶 JFMA 成田氏
人が中心となり、企業と社会がバランス良くなるよう『三方よし』の考え方の下、建物だけでなく、インフラ施設もファシリティマネジメントすることが重要



会場



福島県 木村氏



小野田氏



日本大学 岩城教授



寿建設 森崎氏



ガイアート 渡邊氏



国土交通省 安原氏

技術者育成フォーラム シンポジウム

◇第2部 パネルディスカッション

テーマ：「住民よし」「企業よし」「行政よし」の視点から新たなメンテナンスの展開
～三方よし、地域の担い手(官民連携)の役割と活躍～

議論の進め方：セッション1 何が問題か。何に変えるか

セッション2 何に変えるか。好ましい状態に

セッション3 どうやって変えるか。アイデア 会場の参加者とトークセッション

導入：問題は山積しているけど、コアな問題は数個かもしれない。それぞれ相手の立場のなっ
て考えてみると妙案が生まれてくる。コアな問題点
は解決できると思うことが大切では。

人って、結構思い込みで損をしていませんか。

コーディネーター 鈴木氏

•コーディネーター：

実行委員 技術者育成フォーラムリーダー 鈴木氏

•パネリスト：

福島県土木部道路管理課 主任主査 加藤木氏

日本大学工学部 教授 岩城氏

NPO法人わ トライアスロンアカデミー福島 菊池氏

寿建設株式会社 代表取締役 森崎氏

株式会社ガイアート 道路維持戦略室 室長 幸野氏

国土交通省 交流連携事業調整官 安原氏



福島県 加藤木氏



主なコメント

- 職種としてリスペクトされる姿へ。儲かることも大切。女性目線も取り入れて、「汚い」から「きれい」へ (加藤木)
- 複数年契約の維持管理で投資しやすい環境づくりを (幸野氏)
- 三方よしの考え方を取り入れて、一般市民からの理解を得られる方法の導入に知恵を絞るべき (森崎氏)
- 地域住民とともに、インフラメンテナンスを盛り上げていく工夫が必要。国から国民への「垂直型」と自治体・企業・市民による「水平型」の連携、両者のバランスを (岩城氏)
- 言葉のハードルで興味を削ぐことのないように。ユーザーから情報発信・共有が簡単にできれば (菊池氏)
- 国民会議に積極的に参加して皆さんで少しずつ問題解決を (安原氏)
- 住民も知る機会を得ることで、理解と参加意識が得られる。(会場)



ガイアート 幸野氏



アスリート 菊池 日出子氏



会場からの意見



トライアスリート 菊池日出子

NPO法人わ トライアスロンアカデミー 専任講師
JTUトライアスロンエリート強化指定選手